

★特別企画★

新入生に薦めたい本& 先生に勧めたい本



コロナ禍の中、令和3年度が始まりました。昨年度、図書委員の最後の仕事としてアンケートを実施しました。内容は「新入生に薦めたい本」と「先生に勧めたい本」というテーマでそれぞれ3冊まで答えてもらうというものです。

どんな本たちがあがってきたのでしょうか！コメントも合わせて紹介します。

※「📖」は図書館にある本です。

📖新入生に薦めたい本📖

『妖怪アパートの幽雅な日常』（香月日輪・講談社）

非日常の中で主人公が成長していく姿を見ていくのが楽しい。巻ごとに1つの話題について深掘りしているところも魅力。

『スイッチを押すとき』（山田悠介・文芸社）

辛い環境下で「生きたい」と思い続ける4人の子どもの姿に、命の重さや儚さを感じさせられる。

『モナミは世界を終わらせる？』（はやみねかおる・角川文庫）

読めば読むほど作者の世界に引き込まれる。ミステリー好きな人にオススメ。

📖『きみの友だち』（重松清・新潮文庫）

友達を大切にしたいくなる素敵な本。

『流星ワゴン』（重松清・講談社文庫）

知ることの大切さと気づかないで物事が過ぎて行きとどうなるかがわかる。

『ナイフ』（重松清・新潮文庫）

人間の現実というものが見られる少し重い内容。

『オルタネート』（加藤シゲアキ・新潮社）

SNS での話でもあり現代感が強く感じられる。

『推し、燃ゆ』（宇佐美りん・河出書房新社）

現代の若者をリアルに感じられる。



『伴走者』（浅生鴨・講談社文庫）

視覚障害者と共に走るランナーを題材にしたもので、あまり知ることのない世界に触れる事ができる。

📖『アンネの日記』（アンネ・フランク・文藝春秋）

歴史の勉強ができるし、第二次世界対戦を当事者目線で感じることができる。

『陽だまりの彼女』（越谷オサム・新潮文庫）

作品の舞台が鎌倉ということもあり、映画とともに楽しんでほしい。

『神さまのビオトープ』（凧良ゆう・講談社タイガ）

少し現実離れた世界観だが、とても心温まる。

📖『ピンクとグレー』（加藤シゲアキ・角川書店）

芸能界の光と影が描かれている。加藤くん（作者）にしか書くことのできない世界観がとても良い。

📖『かがみの孤城』（辻村深月・ポプラ社）

本が苦手な人でも読めば必ず続きが気になるような一冊。

📖『植物図鑑』（有川浩・角川書店）

実写映画化されている人気恋愛小説。映画ではお断りされているところが多くあるので、映画が好みだった人は一度原作を読んでほしい。

📖『夜のピクニック』（恩田陸・新潮文庫）

本の中に「青春しとけばよかった」というセリフがあり、新入生の皆さんに後悔してほしくないという願いを込めて。

📖『君の臓腑をたべたい』（住野よる・双葉社）

学生の気持ちを表した1冊です。

『雪があなたをいなくなってしままでしらなかった』（美城圭・集英社オレンジ文庫）

生命の大切さがわかります。

『青の数学』（王城夕紀・新潮文庫）

数学の話で少し難しい部分もあるが、サラッと読めてすごく青春を感じることができます。情景描写がとても綺麗です。

『薬屋のひとりごと』（日向夏・ヒーロー文庫）

主人公のクールな性格とテンポのよい話の展開にスカッとします。主人公と登場人物の絡みや主人公の薬に対する執着心など笑いもあります。

『宇宙のみなしご』（森絵都・角川文庫）

友達の大切さがわかるお話です。難しい言葉が使われていなくて1文が短く、シンプルなのでとても読みやすいです。

📖『獣の奏者』（上橋菜穂子・講談社）

周りの人、動物と共に主人公が成長していく物語。人間の偉大さ、愚かさかわかる。

『火星に住むつもりかい?』(伊坂幸太郎・光文社)

警察のしくみが変化した現代社会での事件。最後がとても衝撃的。

『風に恋う』(額賀零・文春文庫)

部活ものでこれから何か一生懸命頑張ろうという人に読んでほしい。

『千手学園少年探偵団』(金子ユミ・光文社キャラクター文庫)

短編ミステリーで読み易く、ストーリーもしっかりしている。大正という時代設定が新鮮。

『教室に並んだ背表紙』(相沢沙呼・集英社)

短編。ごく普通の子達の話。あからさまなフィクション感がないのでサラッと読めて考えさせられる。

📖『夢をかなえるゾウ』(水野敬也・飛鳥新社) 3巻のみ

生き方や夢について考えるきっかけになると思う。

📖『きみの友だち』(重松清・新潮社)

10本の短編による小説集で読みやすい。「友だち」の本当の意味を見つけることができる。

📖『若草物語』(レイザー・メイ・オルコット・新潮文庫)

個性ある四姉妹が面白い。

『アヒル鴨のコインロッカー』(伊坂幸太郎・東京創元社)

先の見えないストーリー展開が面白い。

📖『鍵のかかった部屋』(ポール・オースター著 柴田元幸・白水社)

先の見えないミステリーが面白い。

新入生の皆さんいかがですか。先輩方のおすすめ本は。

先輩方からのコメントは新入生の皆さんに対する思いやりです。先輩方は皆さん日本の世界を楽しんでもらいたいのです。そして考えてもらいたいのです。

高校生活の片隅に本をおいてあげてください。

📖「先生に勧めたい本」📖

『アバター』(山田悠介・角川書店)

『ぼくらの先生!』(はやみねかおる・講談社)

『青い鳥』(重松清・新潮文庫)

『下町ロケット』(池井戸潤・小学館) 📖



『本日のメニューは。』(行成薫・集英社文庫)

『証言 大谷翔平』(野村克也 張本勲他・宝島社)

『その時までサヨナラ』(山田悠介・河出文庫)

📖『塩の街』(有川浩・角川文庫)

『宿命』(東野圭吾・講談社文庫)

📖『夜行』(森見登美彦・小学館)

『学校のセンセイ』(飛鳥井千砂・ポプラ社)

『天国までの49日間』(櫻井千姫・スターツ出版)

📖『かがみの孤城』(辻村深月・ポプラ社)

📖『星の王子さま』(サンテグジュペリ・新潮文庫)

『春雷』(葉室麟・祥伝社)

📖『流浪の月』(凧良ゆう・東京創元社)

📖『星の子』(今村夏子・朝日新聞出版)

📖『青くて痛くて脆い』(住野よる・角川書店)

『聲の形』(川崎美羽・青い鳥文庫)

『幸せになる勇氣』(岸見一郎 古賀史健・ダイヤモンド社)

『鍵泥棒のメソッド』(麻井みよこ・角川文庫)

『鳥居の向こうは、知らない世界でした。』(友麻碧・幻冬舎文庫)

「先生に勧めたい本」についてのコメントは、本の面白さの紹介が大部分でしたが、中には「いじめやSNSの怖さがリアルに書かれている。先生にも一度読んでほしい」「不登校の子どもがテーマで、子ども目線を知ることができます」など教師の立場に立ったコメントや「ハッピーエンドかバッドエンドか意見を交換したい」といった読後の意見交換を求めるものもあり、図書委員の読書に対する思いの一端が伺えて、大変参考になりました。

今年度も図書館を積極的に利用し、様々な分野に興味を広げていってください。まずは知ることから!皆さんのご来館をお待ちしています。

